ダイキン工業：知財AI活用による「攻めの知財」への変革

変革の羅針盤：知財AI活用の「三原則」

守りの知財
(Defensive IP)

定型業務
(Routine Tasks)

定型業務をAIに委ね、人間は「高度業務」へシフト

結果が変わらない定型作業はAIに任せ、
人間はテーマ適定や構想形成に注力します。

社内適合型のAIアプリを迅速に自律展開

最新のAI動向を追い、自社の実務に最適化した
ツールを社内で展開します。

具体的な5つのAI適用領域

IPランドスケープ、先行文献調査、クリアランス、
2行要約、タグ付与にAIを活用。

AI×組織改革

戦略を加速させる「人材」と「基盤」の統合

デジタル人材育成の心臓部「DICT」

2,000

2025年度末までに約2,000人の
AI人材を育成し、全社的な活用を
支えます。

事業に深く入り込む「伴走型」組織

知財
(IP)

事業
(Business)

知財担当者が研究開発や案件と一体となり、
事業の最上流から戦略を構築。

グローバルな知財管理基盤の刷新

IPfolio

IPfolioの採用により、データ量への対応と
グローバルな業務効率化を推進。

ダイキン知財・AI基盤の進化

- 2015年：TIC（テクノロジー・イノベーションセンター）設立
- 2017年：DICT（ダイキン情報技術大学）設立
- 2024年：知財管理基盤「IPfolio」採用公表